広報ふじ

（新　年　号）

静岡県富士市平垣279番地
発行所　富士市役所
発行人　富士市長　遠藤脩治
印刷所　加藤印刷所
No. 66
昭和36年1月1日発行

人口の動き

人口総数	46,552	男	23,329
世帯数	9,160	女	23,223
転入	211	出生	94
転出	152	死亡	19
婚姻 63	離婚 3	死産 18	

（昭和35年12月1日現在、住民登録による）

◎この広報は、市政のようすを市民の皆さんにお知らせするために、毎月一回発行して全世帯にもれなく配布しています。とじ込んで保存しておくと便利です。

年頭の辞

富士市長　遠藤脩治

昭和三十六年の輝ける新春を迎え、市民の皆様に心からお祝いを申し上げます。

昨年は、黄金の一九六〇年といわれ、わが国経済の成長は目覚しいものがありました。国際収支の好調持続、生産能力の増大、貿易条件の好転等により、前年の神武景気に拍車をかけ、まれに見る高原景気、高水準の経済をもたらしたのであります。そして更には国民所得倍増計画が打ち出され、誠に岩戸景気というにふさわしい年でありました。

わが富士市におきましても、各企業体の設備投資等による自然増収は市財政を潤し、健全財政の鉄則を守りつつもあらゆる面に相当の財政投資がなされたのであります

すでに御承知の通り、約六千戸に近い配水戸数を持つ水道事業が、あるいは立体橋富士大橋、第二小学校第二期工事等が次々に完成しまた、懸案のし尿処理場、田子浦港漁港開発等の新規事業も着々進められ、将来の大富士市発展を目指す多くの礎を築いたのであります。しかしながら、市制施行満七年を迎えた当市は、他の都市に比べますとまだ少年期に入つたばかりの非常に若い市であり、それだけに将来の夢も大きく、海岸砂防をはじめ富士川及び潤井川の改修あるいは第二中学校の建設、身延線西廻り、新幹線ルートの決定等まだまだやらなければならない重要事業が山積しているのであります。そして、これらの事業はいづれも将来駿河湾臨海工業地帯の中心商工都市として発展して行く郷土のためには、是非とも早急にやらなければならない事業なのであります。私が市民各位の御支援により、全力を傾けて市政に打込んで来た過去七年の分厚い日記は、発展する市の歴史と共に、ここに又、新しく一ページがめくられました。年改まる朝心静かに富士を仰げば、おのずから過去への反省と将来への希望が湧き出づるのであります。そして、みんなが味わった今朝のこの新鮮で明るく、朗らかで喜びに満ちた気持で今年も又、円滑な市政の運営を図り、更にはよりよき郷土建設のため、あくまでも堅実な財政の上に立脚した積極政策をもつて今後の行政に当り、充分各位の御期待に添えますよう最善の努力を致したいと念願しております。

何卒倍旧の御支援、御鞭撻をお願いする共に、市民各位の御幸福と御健康をお祈りして、新年の御挨拶と致します。

年頭のことば

富士市議会議長　服部国太郎

輝かしい昭和三十六年の新春を迎え、市民各位の御健康と御繁栄を心より祈念いたし、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

米ソ二大国を中心とする世界の政情は必ずしも好転いたしたとは申されず、かえつて西欧、近東の諸国内は骨肉相喰む混乱を生じ、恒久的平和の礎は、昨年もかけ声だけに終った感があります。安保改訂のあらしに暮れた国政は総選挙を通して一新され、今年こそ何よりも国民の福祉増進のための諸政策が取られることを期待いたしたいと存じます。

翻つて富士市政の動向を見ますと、待望の田子浦港は本年一部開港が見込まれ、臨海工業地帯としての整備は進み、引続き斎藤県政のバックボーンたる第六次総合開発事業が推進されてまいる事と察するのであります。一方国鉄新幹線は既に路線の最終決定に迫られており、富士駅総合改修事業も本年は大いなる進捗が予測されるのであります。これらの大事業と相関連して都市計画道路の新設、整備、舗装はもとより、第二中学校の建設も実現いたさねばなりません。上水道は配水池の築造を近く完工し、各位の期待に副いえましようし、昨年度多大な御協力を願つたし尿処理場建設は本年末には完成を見る予定であります。しかしながら市政の一ッ一ッの仕事は何れも市民各位の深い御理解と御協力がなければ遂行できるものではありません。私ども市議会議員は市当局とともに真に市民の付託に応え、一大工業都市として飛躍せんとする市政のための最善の努力を傾けたい所存であります。

旧ろう十二月十六日市議会は第六回臨時会において正副議長、常任、特別委員等の改選を行い、不肖私が議長の要職を担うこととなり、副議長には渡辺春恵君が選任いたされました。私は市議会議長の職責の重大さにかんがみ、議員諸君とともに誓つて各位の与望にこたえるべく全力を尽したい覚悟であります。

茲に一九六一年の新春に当り、市民各位の御支援御協力を市議会に賜わりますようお願いいたし年頭の御挨拶といたします。

ことしは"うし"年

牛はよく働き大昔から人類のよき協力者（？）となつて私達を幸福に導く労力を提供してくれた。ゆりかごの頃より忘れる事の出来ないあのミルクも牛たちの贈りものである。夜空ですぎを掛けた様に美しい銀河もエジプトの「天の牛」の乳が天に流れたあとだといい伝えられている。

むかし福島県相馬市に細田の金兵衛という おじいさんがいました。よく牛を連れて天明山麓に柴刈りに行きました。ある冬の寒い日にいつもの様に山麓まできた時、洞の中に一匹の小熊が寒さにふるえているのを見つけました。金兵衛はかわいそうに思い家に連れて帰り、牛につけてその乳を飲ませました。牛はよく小熊をいたわり何年か育てました。その頃八幡村の雷神社の祭礼に斗牛があることになつていました。いまの日立村立谷に力自慢の大牛がおりまして毎年大勝利を得て評判が高く、本年も優勝しようとして毎日練習をしていることでした。ところが、その相手が細田の金兵衛の金牛と決りました。金牛の育てた小熊はやがて一人前の熊となり、いつの間にか行方不明となり、そのまま何年かすぎていました。今年の斗牛は名高い立谷の優勝牛と細田の金牛だと、近郷近在では興味ある話題になつていました。いよいよ豊年祭の奉納斗牛の日が来ましたので金牛は金兵衛ちいさんや村の人びとに連れられて雷神社に行きました。

やがて時間になつても、立谷の牛の姿は見えません。立谷の方では斗牛の準備をしていたのですが、当日の朝になつて昨夜まで元気でいた牛の姿が見えず、あわててさがしたところ、あたり一面に大熊の足跡がついているのを見つけました。立谷の牛は大熊にさらわれたのでした。それで立谷の牛は不参加のため金牛は不戦勝、本年の優勝ときまり、山と積まれた宝を背負つて村に帰りました。大熊は幾年か前に恩を受けたあの大熊だつた相違ないということです。（相馬伝説集より）

明けましておめでとうございます

市長　遠藤脩治
助役　遠藤栄
収入役　武内秀道

総務課長　内山正巳
文書課長　落合広治
土木課長　佐野清一
税務課長　長洲幹彦
戸籍課長　望月藤作
商工課長　望月雅巳
厚生課長　滝川隣竜
衛生課長　鈴木敏三
水道課長　北村良作
保険課長　栗原勝
都市計画課長　美濃仁一郎
農産課長　後藤竜雄
職員一同

教育委員会事務局
教育長　涌田隆一
総務課長　稲垣正義
指導課長　塩川辰義
職員一同

市立富士中央病院
院長　多々良満寿雄
副院長　児玉実光
副院長　滝本房一
総務部長　広瀬国助
職員一同